

大安寺地区地域ミーティング  
(通算第53回)



開催日	平成26年2月24日(月)
開催時間	午後7時～午後8時30分
会場	春日公民館 大安寺分館
参加者	42名

地 域 課 題	市 の 回 答
1. 河川改修並びに調整池の整備について	1. 昨年度の水路系統や水路断面の現況調査に基づき、浸水原因の解析と必要な水路断面等の検討業務を進めているが、県の道路建設事業等の実施計画と大安寺地区の治水対策との整合性を図るため、県及び関係機関と協議している。来年度は、部分的に対策が必要とする箇所については測量を行い、連合会、自治会、水利組合等と協議・調整を図りながら対策工事を進めて参りたい。なお、現場調査の結果、八条踏切の箇所の断面的に不足していることが1番大きな問題と考えられ、関西本線の高架化と併せて検討しているが、計画が10年程度かかるため、そのあたりの時期になってくると思っている。それまでの分については、上流側で出来る範囲の部分は年度ごとに進めていく予定はしている。
2. 「西九条・佐保線」の整備に併せた都市計画道路「大和田紀寺線」の整備要望について	2. 都市計画道路「西九条・佐保線」について、京奈和自動車道のアクセス道路として約10年後の供用予定に合わせて事業を進めている。都市計画道路「大和田紀寺線」について、平成21年の県の見直しにおいて、国道24号線から西側の区間が廃止となり、名称は八条紀寺線となっている。この道路の区間については国の史跡指定である大安寺旧境内を分断するため、史跡保全について慎重に検討する必要がある。今後も文化財関係部局と協議を続けていきたい。

<p>3. 八条町付近の JR 関西線「新駅」誘致要望について</p>	<p>3. 現在、都市計画道路「西九条佐保線」の平面化、関西線の高架化について、県や JR 西日本と共に必要性について協議を行っているところであり、その中で新駅の話は出ている。しかし新駅の設置は、周辺のまちづくりに影響を及ぼすとともに、多額の費用負担が見込まれることから、慎重に検討する必要がある。</p>
<p>4. リニアの誘致、新駅、京奈和自動車道を併せた長期的なビジョンについて</p>	<p>4. 現在、県内・京都でもリニア誘致の動きがあるが、奈良市への誘致を訴えている。市内設置場所の最終決定は JR 東海となるが、平城山駅周辺の地上駅、または JR 奈良駅と近鉄奈良駅の間地点の地下駅の2つの案を候補として、JR 東海に提案する考えである。八条の新駅の件については、県と JR が中心的にプランをされており、まだ具体的な話までは詰まっていない。京奈和自動車道の西九条佐保線、奈良 IC の整備が先だと考えている。八条の新駅は、限られた財源の中で優先するには難しい現状である。</p>
<p>5. バンビホーム建設に伴う防球ネットの拡張について、また、自治会・市・学校の協議の場を設けることについて</p>	<p>5. 防球ネットについて、現在建設中の箇所については、要望に沿って可能な限り広げていきたい。協議の場をとの提案については、学校とも相談しながら検討する。バンビホームと史跡の関係について、現行の法を守らなければならない一方で、バンビホーム建設も学校教育の立場として進めていきたい。今後も、国との協議を続けながら少しずつでも進めていく。</p>